

ニホンザルによる農林産物の被害等の防除について

大紀町役場・農林課

平素は当町の農林関係事業に多大なご理解とご協力を賜わり誠にありがとうございます。近年、本町でもニホンザル（以下「サル」）による農林産物の食害などの被害が顕在化しており、県内でも所によっては人間に危害を加えるまでになっています。

本町では被害を減らすために、『追払いによる対応』と連携し『駆除』を行っていきたいと考えています。その理由は対策を駆除だけに頼り強化した場合、サルの群れがいくつもの小グループに分かれてしまい、入替わりやって来て被害が増加してしまうためです。また、サルの群れが分かるとせっかく取付けた電波発信機が有効なものとならないばかりかサルの行動が把握できなくなり、未然に被害を防ぐことができなくなります。

電波発信機の取付けにより行動を把握した所、河川、JR軌道、国道を余り障壁とせず、エサを求め里地と山を頻繁に移動しているようです。

サルによる被害を防除するためには、町民のみなさんを始め関係機関の連携が不可欠な要素となってきます。集落で防除対策をお考えの場合は役場・農林課までお知らせ下さい。

ほ場・守りにくさがどこにあるのか

被害の発生地域は自家消費の菜園が多く、狭小な畑が家屋と地続きな場合が多いため物干し台、立木、引込み線などがサルの侵入・逃走経路として利用されているため、利用されそうなものは移動し、立木の剪定、電線にはグリスを塗るなどの可能な限りの対応が必要です。また、作付け作目においても山側等の侵入側にはトウガラシ、シソ、アロエなどのサルの食べないものを植え、家の側にはダイズ、トウモロコシといったサルの好物を植えるなどの工夫が必要です。

猿害対策の共通認識

一つ例を上げると、「水田で稲を荒らすサルは追払う」が、「水田でレンゲを食べているサルは追わず見て通り過ぎる」といった行為を大半の方々がとっていると思いますがいかがですか？

実は何でも無いようなこの行為がサルの“人馴れを助長”し、“餌付け”をしているのです。現状を放置し更に人馴れが進行すれば、人を襲い食べ物を奪うような事態にまでなりかねません。

猿害対策とは、サルがやってくる全ての集落で、サルに厳しい給餌制限をかけ、集落は餌場ではなく、人間は敵だと知らせることにあります。また、重要なことはサルが餌場として集落を利用しなくなるまで継続することにあります。

サルへの接し方ルール作り

サルに、人間は恐ろしい敵だということを徹底して思い知らせるためにサルとの接し方ルールとして統一しておく必要があります。集落や集落周辺でサルの群れを見かけた場合は徹底して追払い、1匹で現れる離れザルも同じです。但し、「囲いや柵の中に入り込んだサル」や「子連れのサル」は攻撃的になる場合があるので余り近づき過ぎないようにして下さい。網に絡むなどして手に負えない場合には、役場・農林課までお知らせください。

- 無理をせず、一人一人が出来ることから取り組む。
- 一人一人が共通の認識を持ち人任せにしない。
- 集落みんなで取組み、情報交換をこまめに行う。
- サルを見かけたら、ロケット花火、パチンコなどで必ず追払う。
- 何重にも対策を練る。(一つの対策だけに頼らない。剪定、柵の設置等)
- サルが諦めるまで、継続して行う。
- 危険と思われる場合は、役場に連絡する。

猿害対策は二重三重に（具体的な対策）

サルに対して物理的な障壁、心理的な障壁、恐怖体験などみんなで知恵をしぼって思いつく限りの作戦を練り、こまめに集落内で連絡を取り合いましょう。

- 作戦 1 サルが畑まで移動するのに身を隠せないよう、恐怖を感じるよう、除草や灌木を切り見通しを良くする。
- 作戦 2 ほ場に生ゴミを捨てない。(捨てる場合は覆土する。) ほ場周辺の自生果樹を伐採し、サルの餌を無くす。探しても今までのように簡単には餌が見つからないようにする。
- 作戦 3 畑に柵をすることで、やっと畑にたどりついてはどうにかして乗越えないと入れないようにする。(ネットは高さより2重3重にし、絡まり易くする。)
- 作戦 4 畑の柵は手を入れて餌に届きそうな所は、ネットの目を細かくするなど手が入らないよう工夫する。
- 作戦 5 ダイズ、トウモロコシといったサルの好物は家や犬小屋の近くに植える。
- 作戦 6 サルを発見した場合は、必ずロケット花火(火事に注意して下さい。) パチンコなどで狙いを定めて追払う。
- 作戦 7 集落のみんなが畑に柵を設けることで、山迄の逃走経路を一直線としない。柵自体を障壁とする。
- 作戦 8 電柱などの可能な箇所にはグリスを塗り、サルが登れないようにする。
- 作戦 9 畑の柵だけでなく、逃走経路と成得る箇所に網を張るなど簡単に逃走できないように工夫する。
- 作戦 10 畑に侵入され被害が出た時は、何処が適当でなかったかを検証し、地域の状況に応じ臨機応変に対応を練っていく。

サルによる被害を防ぎ、無くすため、

町民の皆様のご理解とご協力をお願い致します。

参考資料

○栽培方法やほ場管理習慣に見られる被害助長要因

品目等	被害助長事例
果樹類全般	<ul style="list-style-type: none"> ・剪枝や剪定方法が適切でないため、樹高が高くこのままの樹型では守りようがない。また、樹高が高いために完全収穫が困難でいつまでも果実が樹上に残り、長期間にわたり餌付け材料となっている。 ・同上の理由で茎葉が混み合っており、サルが身を隠してほ場に接近できる。 ・害虫管理が適切でないため、病害虫の被害により早期から糖度の増す果実や地上に落下する果実が多く、格好の餌付け材料となっている。
ツル性果菜	<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場が狭小なため、広い栽培面積を必要とするカボチャ、スイカ、ウリ類を意識的にほ場外に誘引繁茂させる例が多く、着果位置が散逸していて対策が困難。
果菜類	<ul style="list-style-type: none"> ・整枝、誘引法が不適切なため、果実の引きちぎりですむ被害が茎葉の引きちぎり被害に拡大してしまう（トマト、キュウリ）。 ・栽植密度、肥培管理が不適切なため、果実の引きちぎり被害で済む被害が株の引抜き被害（回復不可能）に拡大してしまう（ナス）。 ・定植時の配慮不足から、果実が発見し易く、サルの網越し被害を誘ってしまう位置に結実させている（イチゴ、トマト）。
根菜類	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫適期を過ぎて引抜いた株を放置する例が多く、餌付け材料となっている。
イネ	<ul style="list-style-type: none"> ・稲刈り後の不定芽が年により出穂、登熟したり、レンゲが繁茂するなど秋～春期に格好の餌場になっている。（稲刈り後は早期に耕起する）
管理習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・葉菜、根菜類はその場で可食部のみを切り取り、残さ（ニンジン、ダイコンの葉と根の最上部、最下端部、キャベツ、白菜等は結球葉以外の外葉など）をほ場に放置する家庭菜園特有の収穫法が多い。 ・台所で生じたゴミ（果物の皮、野菜くず、卵の殻など）を、堆肥になるとの思いからほ場に捨てる習慣があり、これらの中にサルの餌となる部分が散見される。

○奈良県の猿害発生地域における栽培品目と猿害発生の状況

被害程度	品目
全地域で被害あり	カボチャ、スイカ、カンショ、トウモロコシ、カキ、クリ、モモ、スモモ
広い地域で被害あり	ナス、ダイズ、ジャガイモ、インゲン、ダイコン、トウキ、ピワ
地域により被害あり	タマネギ、ネギ、ラッキョウ、タケノコ、キュウリ、イチジク、ブドウ、キウイフルーツ、ニンジン、サトイモ、ウメ（新芽）、ユリネ、アスパラガス、ラッカセイ、シイタケ、チョロギ、ハギ（新芽）、キャベツ、ハクサイ、イチゴ、ハウレンソウ、オクラ、ユズ、シロナ、ナシ、トマト、ピーマン、オウトウ
今のところ被害なし	トウガラシ、コンニャク、モロヘイヤ、シソ、ワサビ、アロエ

居住地域や群により食物の趣向が若干異なります。

ニホンザルによる農林産物の被害防止について

近年、シカやイノシシ、ニホンザル(以下「サル」)といった野生動物による農林産物の食害や農道、畦畔の掘起こしなどの被害が顕在化し、農地の荒廃が懸念されています。特にサルの対策が難しく、所によっては、人間に危害を加えるまでになっています。

サルは非常に警戒心が強く、見通しの良い平地では藪や林地から50m程しか行動しないとされていますが、戦後の禁猟措置や農作業をする人々の減少などにより行動範囲が徐々に広がったようです。また、自然界ではサルは木の実や葉、雑草を好んで食べ、活動時間のほとんどをエサ探しに費やしていますが、里地を縄張りとしているサルは、人間が作った栄養価の高い作物を短時間で大量に食べるようになり初産齢の低下や連年出産、幼獣の死亡率の低下などにより個体数が増加し、被害増加の一因となっているようです。

○サルの被害の防除ポイント

1. 野菜クズなどエサとなるものを田や畑に捨てず放置しない。捨てる場合は覆土する。
2. 里に現れた時は、必ず追払いを行い、あきらめない。可能な限り集落で連携する。
ロケット花火(火災に十分注意して下さい。)、パチンコなどは必ずサルに狙いを付けて発射する。
(爆竹は、サルにとって狙われた意識が無いいため効果が小さい)

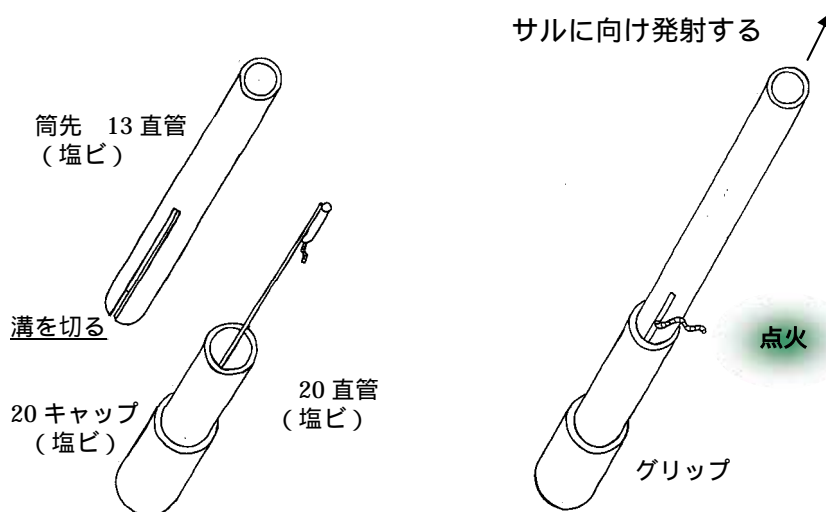
三重県科学技術振興センター林業研究部において考案された、安価で、サルに有効であると思われるサルネット(漁網を用いた簡易防護柵)をご紹介します。

材料のほとんどがホームセンター等で入手でき、支柱には、弾力性のある資材を用い、漁網(カレイ刺網)を垂らして周囲を囲みます。材料や価格は別表のとおりですが、廃材などをリサイクルするとより安価に設置できます。

《サルネットの設置例》



《ロケット花火発射機の製作例》



猿害対策の共通認識

一つ例を上げると、「水田で稲を荒らすサルは追払う」が、「水田でレンゲを食べているサルは追わず見て通り過ぎる」といった行為を大半の方がとっていると思いますがいかがですか？

実は何でも無いようなこの行為がサルの「人馴れを助長」し、「餌付け」をしているのです。現状を放置し更に人馴れが進行すれば、人を襲い食べ物を奪うような事態にまでなりかねません。

猿害対策とは、サルがやってくる全ての集落で、サルに厳しい給餌制限をかけ、集落は餌場ではなく、人間は敵だと知らせることにあります。また、重要なことはサルが餌場として集落を利用しなくなるまで継続することにあります。

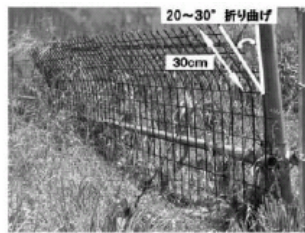
ご利用ください 野生鳥獣による被害防止マニュアル

野生鳥獣による農作物などへの被害は、全国的に大きな問題となっており、農林水産省生産局では「野生鳥獣被害防止マニュアル 生態と被害防止対策(基礎編)」を作成しホームページで紹介しています。鳥獣被害の現状と要因 イノシシ、シカ、サルの獣種別対策 個人でできるものや地域ぐるみの対策など 総合的な被害対策が数多く分かりやすく紹介されていますので、ぜひご利用ください。ホームページを閲覧できない方は、農林課の備え付けの印刷物で閲覧できます。

農林水産省ホームページ「野生鳥獣被害防止マニュアル」
<http://www.maff.go.jp/soshiki/seisan/cyoju/manual/index.html>

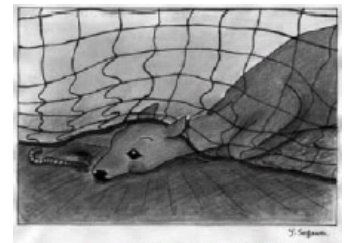
紹介内容の一例

【イノシシ】忍び返し柵と防護柵の組み合わせ
一般的に使用されている1mの高さのワイヤーメッシュ格子柵を改良し、上部30cmの部分を外側に折り曲げると、イノシシは接近しても乗り越えない
いくつかの進入防止技術の弱点を補いあうように配置することで効果も上がる



<竹内正彦撮影>

【シカ】シカはもぐり込んで侵入する
穴やすき間のあいた柵は効果がない。(助走なしで2mの高さを跳ぶことができるが、ほとんどは「もぐり込み」による侵入)
凹地をまたがないようにネットを張る
無理に広く囲わず、確実に防護する
シカが絡まない資材(網目5cm程度のネットが望ましい)を選択する



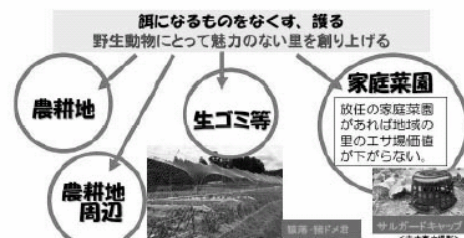
<イラスト:瀬川也寸子>

【サル】サルの追い払い
環境整備、農地の防除が先決
サルの観察会、餌付けなどの禁止
サルの行動を十分把握し、追い払い先を明確にする
ロケット花火などの活用による追い払い体制の整備(猟友会やボランティア団体などとの連携)
犬の利用や電波発信機の活用も有効
行動のモニタリングとその継続が必要



<中本憲之撮影>

地域ぐるみで里のエサ場価値を下げる
農家の鳥獣害対策への意識改革



農耕地を守るだけでは、里のエサ場価値は下がらない。家庭菜園においても対策が必要。